

# アフリカ豚コレラに対する国際協力について

- アフリカ豚コレラは、欧州のみならず、昨年8月にアジアで初めて中国で感染が確認され、その後、本年1月から3月にかけてモンゴル、ベトナム、カンボジアで、5月には香港、北朝鮮で感染が確認されるなど、アジアでの感染が拡大。
- アフリカ豚コレラの発生の拡大・まん延防止は国際的に協力して対応すべき課題であり、国際獣疫事務局(OIE)や国連食糧農業機関(FAO)などの国際機関の主導のもと、関係国が連携・協力することにより、アフリカ豚コレラの発生拡大・まん延防止を図り、各国への侵入リスクを低減。

## ○ G20新潟農業大臣会合

- ・ 2019年5月11日～12日、吉川農林水産大臣を議長として開催されたG20新潟農業大臣会合において、国際獣疫事務局(OIE)を含む国際機関への支援と情報共有の強化及び特にアフリカ豚コレラ(ASF)等の越境性動物疾病に対処するためのOIE基準の実施が重要であるとの閣僚宣言が採択。



## ○ OIE等の国際機関における活動

### (1) OIE総会

- ・ 2019年5月26日～31日、第87回OIE総会(フランス)において、ASFへの対応について農家等への知識啓発、農場のバイオセキュリティの強化、早期摘発等の重要性が確認され、啓発活動、バイオセキュリティの強化、透明性の確保、畜産物や動物の密輸対策、地域の連携、研究協力等に関するASF国際協力の決議が採択。

(参加国・機関: 182のOIE加盟国・地域、71の国際機関等から合計約900名が出席)



第87回OIE総会 開会式の様子  
(21カ国の農業省の政務が出席)

### (2) OIE/FAOアジア地域アフリカ豚コレラ専門家会合

- ・ 本年4月に中国で開催された第1回会合に続き、本年7月、第2回会合を東京で開催予定。水際対策やバイオセキュリティの強化等の技術的課題や地域の連携・協力について議論される予定。

(参加予定国・機関: ベトナム・モンゴル、カンボジア等のアジア地域のASF発生国及びその他アジア地域の加盟国・地域、専門家、OIE、FAO等)



第1回OIE/FAOアジア地域ASF専門家会合の様子

## 第 87 回 OIE 総会 アフリカ豚コレラの制御に関する決議（決議 No. 33）の概要

令和元年 5 月 28 日、第 87 回 OIE 総会技術的課題 II においてアフリカ豚コレラに関する現状が取り上げられ、同 30 日にアフリカ豚コレラ的世界的な制御に関する決議（Resolution No. 33 Global Control of African Swine Fever）が採択された。

決議における推奨事項（recommendation）の主な内容は以下のとおり。

- 1 ASF の世界的な発生リスクが高まっている現や、動物衛生・アニマルウェルフェア・経済等の影響の大きさに鑑み、ASF 制御は、現在の発生ステータスに関わらず、全ての加盟国は高い優先度をもって対応すること
- 2 加盟国は、ASF の危機管理、予防、早期摘発、早期対応、補償等を内容とする国家制御プログラムの設定又は見直しを行うこと
- 3 加盟国は、ASF の侵入リスクとなりうる行動や、豚生産関係者における野生いのしし対策を含めたバイオセキュリティの強化を効果的に啓発するためのリスクコミュニケーションが必須であることを認識すること
- 4 加盟国は、OIE への迅速かつ包括的な疾病発生報告により透明性と貿易相手国との信頼を維持すること
- 5 ASF 発生国と豚及び豚製品を貿易する加盟国は、貿易への不当な衛生障壁を除外しつつ ASF の侵入リスクを低減するため、OIE コードの関連章の規定を実施すること
- 6 豚及び豚製品を貿易する国は、ASF の侵入の影響を考慮し、危機管理計画（preparedness plan）の一部として、貿易相手国との証明書の調整を通じ、ゾーニング、コンパートメント、物品ベースの貿易に関する OIE コードを活用し、取引を継続するためのリスク管理を行うこと
- 7 加盟国は肉・肉製品・動物の密輸などの違法行為通じた ASF の拡大を防止するための全ての実施可能な対応を行うこと